



共同通信



2009年9月19日 157(367号)

日本基督教団 西宮共同教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22
TEL0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email : koudou@gamma.ocn.ne.jp
<http://koudou.jp/> 振替01170-3-4901
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、
笑い 泣き 歯ぎしりをした 自分の人生を語ってほしい、
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

To tell the story 57 『2009年夏の能勢キャンプ』

7月27日の晩、会社から帰った後
食事を済まし、バイクに火を入れる。
定時前にトラブルがあってヒヤッ
したが、予定通り休めて何より。こ
れから「能勢キャン」だ。

「キャンプ」という言葉を辞書でひ
くと、「兵営」「収容所」「合宿」な
どの意味もあるが、一般的なのは「野
営」であろう。人により得手不得手
があるので、野営と聞くと顔をしか
める人もいれば、目を輝かせる人も
いる。私は、どうやら後者の方に属
するようだ。

話は少し変わるが、私の不得手な
ものに「電話をかける」というのが
ある。何故だと言われても苦手なも
のは苦手。苦行と言ってもいいくら
いで、あちこち行くのは好きだが電

話するのは嫌いな男が旅館を予約す
るはずもなく、結果「適当な場所に野
営」となるのであった。かくして私
の中で野営は、旅の手段として発達す
るのだが、子どもを授かった昨今は
「野営することが目的」になってい
たりする。つまり、「野営するために旅
に出る」のだ。それはそれで楽しい
のだが、野営自身が目的となること
に、少し寂しさを感じていたりする。

教会学校の活動の中にも「野営」が
あり、それが今回参加する通称「能
勢キャン」と言われるものだ。この野
営も類に漏れず「虫が出るからもう行
かない」派と「楽しいからまた行く」
派に別れる。うちの娘達は後者で、毎
年足しげく通っている。帰ってくる
と、色々楽しい話を聞かせてくれる 1

ので、このキャンプは「親の目を離れて好き勝手できるパラダイス」なのであろう。親としての能勢キャンはどうか。「子供が喜ぶから」とか「自然を体験させたい」など、人により異なるにしても、何かの為の手段である。かくいう我が家も、子どもを能勢キャンに行かせるために何かしようとした覚えはないわけで、能勢キャンを手段として利用させてもらっている。今回は年休を取る理由にもなっているので、期せずして手段としての野営の再現である。そのせいか、真っ暗な道を走りながら、心なしかウキウキしてくるのを感じるのがあった。

能勢キャンを行う教会学校にとっても、何かを達成するもしくは何かを達成に至る一段階としての手段なのであろう。どの様な目的で行われているかは、高尚ならざる我が身には推し量れぬところではあるが、子どものためにならないことで無いことは確かである。

今年、その能勢キャンのお手伝いをさせていただく機会を与えて頂いた。過去2回、遊びで顔を出したことはあるが、お手伝いは初めてである。本当はフル参加でお手伝いしたい所だが、さすがに3日の休みを取るのは難しく、2日目に年休取って、1日目晩から2日目の参加とさせていただいた。お手伝いに当たって「キャンプ

でします。食事作りも片づけも自分でやります。火や刃物を扱うことになるので、大人は子ども達がやるのが危なくないかを見て下さい。子ども達が、やり方がわからない時、やり方を教えて下さい。」と言われたのを思い出す。「そうか、これは野営であると同時に合宿なのだ」と遅ればせながら悟るのであった。

さて、能勢キャンの行われている大阪府立青少年野外活動センターに着いたのは、よい子がそろそろ寝る時間。いつもなら星空観測をやっている時間だが、この日はあいにくの曇り空で、代わりに明日のファイヤーダンスの予行発表をしていました。この後は、もちろん消灯・就寝。旅行ではなく合宿ですから、鬼軍曹よろしく「寝ねー子はいねえーかぁ」と夜の見回りをします。子ども達がおとなしくしていることに、なんとなく予定調和を感じながら、2回目の見回りまで一休み。そして不覚にもそのまま意識を失ってしまった。

気が付くと、朝、子ども達に起こされている。これではあべこべだ。この日の予定はまず朝食前の山登り。元気満々の子と、理由はよくわからないけど妙に眠そうな子がいて、かなり長い隊列になって登る。天気は、何時雨が降ってきてもおかしくないくらい霧。私は道を知らないで、何よりも自分が迷子にならないように、子ども達を懸命に登らせる。山頂も

霧、何も見えないが、子ども達を見守るといふ大義の元一番高い所に居座る。やはり、てっぺんは気持ちがいい。山を降りて朝ご飯。どうやら、全員そろっている様でほっと一息。他の山登りでもそうだが、100人超える子供が、班毎に並ぶでもなくぞろぞろ動いて、ちゃんと帰って来るのはすごいとしか言いようがありません。

朝ご飯が済むと、藍染めの準備、そしてすぐに昼食の準備。食事は、かまどで薪を燃やして作るのだが、毎回火を着ける所からのプロセスで、毎回担当の班が替わる。すなわち人が替わる、つまり毎回一から教えるということになるので大変時間がかかる。もちろん、これは「お手伝いの注意」にあったように、野菜を切ったりするのと同様に省略できない大事なプロセスなのだが、夕食を作る時点で「俺はひょっとして一日じゅう飯を作っているのでは無かろうか？」と錯覚するくらい、かまどの前にいた気がする。「昔の人は、これに風呂

焚きが入るから、さぞ大変だったろう」と意味もない感心をしたりする。しかし、子どもが薪を割ったり、火を起こしたりするのを見守るのは、ハラハラしつつも微笑ましいものだ。私は、この後キャンプファイヤーの点火まで見たところで、失礼させていただいた。

帰路、この1日のことを考えながら走ったのだが、子ども達は自由勝手に過ごしているようで、かなりのスケジュールをこなしている。ご飯の準備・撤収・片づけもそれなりにちゃんとやっている。ちゃんとそれなりの集団として行動しているのだ。「この子達、言うことは絶対聞かないし、ピシッとした団体行動はたぶん出来ないけど、やらなきゃいけないことは多分やる。いや、きっとやるな。」と思うと、自分の手柄でもないのに誇らしい気持ちになるのだった。

(武田 恒雄)

「…人間はわかろうと背伸びをしてわからないことを咀嚼ししゃくする中でしか物事をわかるようにはなっていないところがある。そう、背伸びを拒絶するようになつたら人間ももうおしまいなんですよ。…」

(橋本治『アタマ』を矢とした日本のゆくえ)

「すべてのいましめの中で、どれが第一のものですか」という質問に対するイエスの答えは、「第一のいましめは、これである『イスラエルよ、聞け。主なるわたしたちの神は、ただひとりの主である。心をつくし、精神をつくし、思いをつくし、力をつくし、主なるあなたの神を愛せよ』。第二はこれである。『自分を愛するようになあなたの隣り人を愛せよ』。これより大事ないましめは、ほかにない」でした(マルコによる福音書12章28～31節)。「すべてのいましめ」は旧約聖書の申命記やレビ記に、ことこまかに書き記されています。「…心をつくし、精神をつくし、…あなたの神、主を愛さなければならない…」は、申命記6章4節以下が、もとになっています。その場合、単なる言葉ではなく、彼らが生きた生活世界や世界観のこととして、それは理解されていました。「…あなたに命じるこれらの言葉をあなたの心に留め、努めてこれをあなたの子らに教え、あなたが家に座している時も、道を歩く時も、寝る時も、起きる時も、これについ

て・・・」ですから(同6章6、7節)“本気”なのです。

“どれが第一のものか”と問われ、イエスがもう一つ他にあげることになったのが「自分を愛するようになあなたの隣り人を愛せよ」です。マルコによる福音書では、この二つを挙げてそれに同意した律法学者は、更に「・・・すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです」と口にします。イエスの迫力に押されるようにして、思わず“・・・はるかに大事なことです”と口にしたのかもしれませんが、律法学者のあるべき姿を否定することになるゆゆしい発言ではあるのです。その、もう一つのいましめ“自分を愛するようになあなたの隣り人を愛せよ”のもとになるのが、レビ記の「・・・あなた自身のようにあなたの隣り人を愛さなければならない」です(19章18節)。

レビ記が“あなたの隣り人を愛さなければならない”という時には、具体的に隣り人が想定されています。「あなたが他の実りを刈り入れるときは、畑のすみずみまで刈りつくして

はならない。またあなたの刈り入れの落ち穂を拾ってはならない。

・・・貧しい者と寄留者とのために、これを残しておかなければならない...」(レビ記19章9～10節)。貧しい者と寄留者は“隣り人”なのです。「あなたの隣り人をしえたげてはならない。...日雇い人の賃金を明くる朝まで、あなたのもとにとどめておいてはならない。...耳しいを、のろってはならない。目しいの前につまずくものをおいてはならない...」の日雇い人、耳しい、目しいは“隣り人”なのです。そして“隣り人”と向かい合う時「不正を行ってはならない」「ただ正義をもって」であるのは、“隣り人”だからです。“隣り人を愛する”という建前や決まりがあるからではなく、そこにいる隣り人に気付き、そこにいる隣り人をおろそかにできないという、強い思いがあって、そんなことが積み重なった結果、“...自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ”なのです。

という“自分を愛するようにあなたの隣り人を愛せよ”を、自分の主張の中に繰り返し登場させるのがパウロです。「兄弟たちよ、あなたがたが召されたのは、実に、自由を得るためである。ただ、その自由を肉の働く機会としないで、愛をもって主に仕えなさい。律法の全体は『自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ』と

いうこの一句に尽きるからである」(ガラテヤ人への手紙5章13、14節)。と、いましめを“一句に尽きる”と言い切るのですが、“隣り人”として視野に置いているのは、13節の“兄弟たち”です。その兄弟たちの間で起こっている争い、「互いにかみ合い、食い合っている」(15節)ある現実に向かって、“自分を愛するように...”の言葉が投げかけられています。レビ記が視野においていた隣り人は、身内ではありませんでしたが、その社会の片隅にいることを強いられた“貧しい者と寄留者”でした。身内ではありませんでしたが、生きて生活する社会のふところの深さが、そんな人たちへの寛容となって示されて“隣り人”になっています。ガラテヤ書の場合の隣り人は、もともとが兄弟である身内のことで、身内であるにも関わらず、あるいはだからこそ起こってしまっている“互いにかみ合い、食い合っている”事実に対する警告として“あなたの隣り人を愛せよ”となりました。

マルコによる福音書が、“すべての燔祭や犠牲より、はるかに大事なことです”という律法学者の言葉を取り上げる、そのことでの一番の狙いは、いましめの実現が、燔祭や犠牲で完結すると思われていることへの批判でした。“隣り人を愛する”は、例えばレビ記がいくつもの具体例をあ

げ、ただあげるだけではなく、そのこと
 とで隣り人は誰であることを、明確に
 示す、仲間意識や身内事情を越えた
 “共生”こそが、“自分を愛するように
 あなたの隣り人を愛せよ”の本来の
 意味です。

(菅澤 邦明)

① ` •jE•, Ì, ç, Ì, è• `

•@_ , ³, Ü•A •H, Ì-K, ê, ðŠ´, ¶•S, º-h, ê, Ä, ç, Ü, ••B

•@-c, ç• •A %Ä, Ì•I, í, è, ÉŠ´, ¶, ½~Ì, Ñ, µ, ³, ð•v, ç•o, µ, Ä, ç, Ü, ••B

•@-c•™ <³ ^ç, ð•¶, «, º, ç, Æ, ³, ê, Ä, ç, é•æ•¶, Ì•` , ç, ½-{, ð`Ç, Ý, Ü, µ, ½•B

•u•q, Ç, à, Í•A•© º, Ì-Í, Å 1, çŠ Ì, Î, ¹, ÄŠ Ì, Ô• ¶, « º, Å , é•vA, »•º`
 , ©, ê, ½Æ¼-t, É-Ú, º, Æ, Ü, è, Ü, µ, ½•B

•@•q, Ç, à, ½, ç, ðÆ©, Å, Æ, Ä, ç, Ä•A , » , ±, ÉfLfŠfXfg, Ì~º, ºÆ©, |, é•C, º
 , µ, Ü, ••B •u•© º, ð`º, •, é, æ, º, É•A, , È, ½, Ì-x, è•1, ð`º, ¹, æ•v , È, ½
 , ±, » , º, » , ºÆ¼, í, ê, ½, ©, ç, Å , ••B

•@•- , µ, , , Å , , - , È, Å, Ä, ç, - <ó•A -Á, µ, - , È, Å, Ä, « , ½•- , º•µ, ½, ç, ð, Å

, Å, ñ, Å, -, ê, Ä, ç, Ü, ••B `å•1, É, È, é, É, Å, ê-Y, ê, Ä, « , ½, ½, - , ³, ñ, Ì`å

•@, È, ±, Æ•B •H, Ì•%, Æ, É•A , , Ì• , Ì<C•• , ç, ð•v, ç<N, ± , •, æ, º, É•A ••q
 , Ç, à, ½, ç, º , È, ½, É-D, µ, -Æ©•ç, ç, ê, Ä, ç, é•L% , ð•c, µ, Ä, ç, - , ±, Æ
 , º, Å, «, Ü, •, æ, º, É•B

•@ `å•1, É, È, Å, Ä, à•A , » , Ì•1, ð•x, |, é•v, ç•o, Æ, È, è, Ü, • , æ, º, É•B

•@ , ±, Ì`èÆ¼, Ì<F, è•A ` , «•åfCfGfX •ÉfLfŠfXfg, ÌÆä-¼, É, æ, Å, ÄÆä`O
 , É, "•ù, °`v, µ, Ü, ••B •@fA• [f•f`

② •@ •@ •@ •@ •@ •@ •@•@•@•@i` å•½@-L< I•j

“ 夏休みがあけて ”

長い長い幼稚園の夏休み、園庭はせみの声だけがにぎやかに響いていました。例年より少し早く始まった夏期保育は、年長ぐみの宿泊保育・淡路島へのおでかけや、親子でのわらべうたの集まり、また、日頃子どもたちが遊んでいる遊びを仲間と、そしてお家の方同士で楽しんでいただけ、とてもいい時間となりました。8月の終わりからの夏期保育で、久しぶりの仲間との再会に喜び、大興奮の子どもたちを見ると、ここ共同での過ごす時間の豊かさに改めて感謝する思いです。

幼稚園が夏休みを迎えてしばらくすると行われるのが教会学校のキャンプです。卒園した子ども達がたくさん参加してくれるこのキャンプを私は毎年とても楽しみにしています。大阪の能勢にある野外活動センターでの2泊3日の能勢キャンプは子ども116名、スタッフ30名、総勢146名の大所帯。今年はお天気にはあまり恵まれませんでした。それでも川で水遊びをし、早朝の山も登り、みんなでご飯を作って食べて～の3日間を過ごし、みんな大きな怪我や事故もなく無事に帰ってきました。今年も高学年の班長・副班長たちがいろいろ動いてくれて、低学年の子たちの面倒を見てくれたり、テントの中の

こともしっかり見てくれて、何かと班長～！副班長～お願い～！とたくさん頼らせてもらおうと、嫌な顔ひとつしないで、逆にそう言われると嬉しそうでやる気満々だったのです。そしてそんな姿を低学年の子達はしっかり見ていました。子ども達同士で支えあう、助け合う、そしてキャンプを通して新たに人間関係ができていたりして、能勢キャンプの良さがそこに見えたように思いました。もう一つの沖縄キャンプでもそうですが、小学5年生以上だから自分達のは自分達で、仲間同士でします。元々仲のいいメンバーではあったけれど、5日間、仲間と一緒に親の元を離れて過ごす時間は子ども同士の絆もどこか深まっていくようです。そしてそんな時間を一緒に過ごす機会を与えていただいていることがとても幸せでした。その土地その土地の人と触れ合ったり、その土地の人の生き方に触れたり、何かを感じることを子どもたちと共有できたことを心より感謝します。

そんな夏が終わって、もう9月です。幼稚園も2学期が始まりました。初日には今年もあの！大きな大きな大栄西瓜がみんなの前に登場しました。今年も重さこそは量りませんが、大人2人がかりでやっと持ち

上がる！そんな大きさに3度目～になる年長の子どもたちもやっぱり、ドチャ～！！と、なってしまうのです。おかわりしても、おかわりしてもまだまだある～ そんな幸せなひと時、子どもたちのお腹はスイカっ腹！そしてその日のみんなのズボンのポケットにはふつうのスイカより、2回りも、3回りも大きなスイカの種が入っていました。

頬に当たる風が爽やかで、思わず手を広げて風を体中で感じたくなる、そんな季節になりました。園庭のイチョウの銀杏も色付き、ポトンポトンと落ち始め、オリーブの実も大き

くなっています。幼稚園の畑では彼岸花が咲き始め、さんぼ・らったぐみは年長ぐみと一緒にコスモスを楽しみに長居公園へ、ぽっぽぐみは関学へ出かけたりと楽しんでいます。少し涼しくなって、歩きやすくなり、また季節の移り変わりを目で一杯に感じられるそんな素敵な時期です。時々聴こえてくる虫の声に耳を傾けながら、少しずつ深まっていく秋を楽しんでいきたいと思っています。

(石堂 寛子)

すずや便り

こんにちは。過ごしやすい日が続いています。空にはいわし雲、夕食時には涼しい風・・・すっかり秋の風情です。しかし！これを書いているのは8月の終わり、我が家は夏休みの宿題追い込みweek...ゴールは見えてきたのでほっと一息ですが。今回は秋のお楽しみ予定を紹介しようと思います。少し前に10月からNHK教育テレビの人形劇が始まるとネットで目にしました。NHKの人形劇といえば、「ひょっこりひょうたんじま」が有名だと思いますが(もちろんリアルタイムでは見ていませんよ)、私は「プリンプリン物

語」「三国志」が印象に残っています。特に三国志に最初に触れたのが人形劇だったので、その後漫画を読んでも(横山光輝=これも読みやすくお勧め)、小説を読んでも、頭の中はあの人形たちが活躍していました。第一印象って、大事ですね。特に関羽は知的で格好よくて憧れでした。で、今回の人形劇は「新・三銃士」。デュマの原作を三谷幸喜が脚色しています。そうなんです、一度生の舞台を観たくて、今度はいつかな～と「三谷幸喜」で検索していたらこの情報にあたったというわけです。初回は10/12とあったので、

毎週月曜日かと勝手に考えていました。今回きちんと調べたら初回10話は連続放送(月~金5回ずつ)、その後毎週金曜日だそうです。調べてよかった!時間は18時から20分間です。興味をもたれた方はぜひ。映像があれば本もあります。芥川賞掲載号は購入してしまう文芸春秋に「名著講義」という欄がありまして、今回のお題が福澤諭吉の「福翁自伝」でした。62歳になった諭吉が自伝を口述し、さらに校正を加えた後時事新報に掲載されたものだそうです。お茶の水女子大の教授と学生の対話形式の記事なのですが、学生が「とてもおもしろかった」という感想を持っているのです。福澤諭吉 = 日本史に出てくる人、程度の知識

しかない私にとってそんな人の本が「面白い」しかも「現代でも普通に売られている」ことにカルチャーショックを受け、秋の夜長の一冊に早速ネット注文してしまいました(岩波文庫)。今までにないジャンルに挑戦、届くのが楽しみです。インドアな話題ばかりですね、アウトドアは近所の散歩位しか今のところ思いつきませんので、ゆっくり楽しみを見つけないかと思っています。皆さまも素敵な秋をお過ごしください。

(富家 香麻里)

みかん便り

今、9月の半ばです。夏休みも3分の2が終わってしまいました。つい先日、今年初の花火を見ました。奈良県の「天理な祭り」のENDINGで踊り終わった後、カウントダウンの後のうちあがった花火はその日1日の踊りの疲れを忘れさせてくれました。花火の後にはまた疲れが戻ってきましたけど(笑)毎年この祭りが終わると夏が終わった気になります。この祭りに参加させていただいて今年で4度目。当たり前ですが毎年夏の終わりは違いますね。4年前の初年はただがむしゃらに

踊り続けた夏でした。毎日朝から晩まで踊りの練習。土日は全国に祭りの出演。全国を飛び回っている人々に会いたくさんの経験をした夏でした。翌年は受験勉強1色の夏でした。何も蓄えが無く、1から勉強を始めた地獄の夏でしたが、息抜きでこの祭りに参加させてもらい一気に疲れが取れたことを思い出します。3年目の去年は恩返し of 夏でした。世話してくれていた人に大きな迷惑をかけ、謝罪のために、自分の出来ることを出来る限りすべて出し切りしました。「天理な祭り」の花火を見てやり

切った感を持ち夏を終えることが出来ました。

今年の夏は勉強の夏でした。夏の初めに家庭教師をはじめました。中2の男の子に英語を教えています。将来は小学校の先生になりたいと思っていたので、教えることってどんなものか興味を持ちやってみたのですが、これがなかなか難しい！！英語を教えるにも基礎が全く無く、中1の教科書を引っ張り出しーからはじめました。夏の目標は中1の内容を終わらせること。話を聞いていると、学校の英語の教え方が気に入らないらしく、英語が嫌いになってしまったらしい。学校では教科書をノートに写し、それを訳していくだけの作業。基礎も無いのに訳せるわけも無く、そのまま流れて今に至ったと言っていました。英語は言葉ですが日本語とは全く違う言葉です。日本語はひらがなにしろ漢字にしろ語句にしろ、文字自体に意味があります。ですが英語の場合、文字はただの文字であり、パズル的な組み立てで言葉を作り出しています。

「英語はただのパズルやし、作り方を何個か覚えたらすぐ組み立てれるようになるよ。」というのと、しぶしぶ英語を学び始めてくれました。

夏の初めは1割も解けなかった問

10 題も、終わりには8割近く解けるよ

うになりました。今ではニコニコして机に座っています。英語が楽しいとも言っていますし、休み時間には日本語も教えてほしいと言っています。

勉強って言うのはやり始めはしんどいですが、続けていくとなかなか面白いもんです。分かってくると次から次へとやりたくなる。楽しいと思えばどんどん伸びてくる。どんなものもやり始めが肝心で、初めが少しでも分かるとなんとなくでもついてこれる。

これって勉強だけじゃなく、スポーツや美術や料理でも当てはめられるわけで、考えれば当たり前のこと。でも、勉強って言うものに対しての嫌悪感だけでみんな勉強することを避けている。これってもったいない事やなあって思いました。

このみかんだよりを書き始めて、当たり前のことなのに理解できてないものが多いということに気付かされてます。人の気持ちを知ること、感謝の大切さ、友達の大事さ、家族の温かさ、お金の意味。そして学ぶことの面白さ。

1ヶ月を振り返り文章として書くことは再発見をする1つの手段。気付くこと、学ぶことは面白いです。

そのことを改めて気付かせてくれたのが今年の夏でした。

来年の夏はどんな夏になるか今から楽しみです。

(河村 高志)

教会学校から

《8月の活動報告》

8月5日(水)～8月9日(日)

共同子ども沖縄キャンプ

台風8号の中、子ども13人スタッフ7名が参加しました。

8月2日(日)～23日(日)

教会学校は夏休みです。

8月24日(月)～29日(土)

“子どもの時間・子どもの時代2009”写真展

能勢キャンプと沖縄キャンプの子どもたちの写真展です。

8月30日(日)

おみやげ&おみやげ話パーティ

《9月の活動予定》

9月6日(日)

津門川掃除大作戦

9月13日(日)

・沖縄クイズ大会・そうめんチャンプルーを食べる!

・沖縄キャンプ同窓会&エイサーまつり

9月20日(日)

地域の方と一緒に遊ぶ

9月27日(日)

第1回津門川川魚調査

2009年9月 あんなこと こんなこと...

大切な贈り物・津門川 8 4

“ 川そうじ日記 ”

まいのなんでも案内

こんばんは。いきなりですが、わたくし、スランプなのではないかと思えます。スランプって何か格好良くないですか。プロっぽいといいますが、一度言ってみたかった、「今スランプで・・・」。スランプって、いつもすらすらと書いてたものが突然書けなくなる状態に陥るってことですよね？そう、今回の原稿は書こうと思ってワードを立ち上げてからなかなか書けなくて。まあ最近自由に文章を書く機会が格段に減ったせいもあります（日報という、会社に提出する正式な日記みたいなものは書いてます）し、そもそも家のPC開くのが最近は一月に一回になってる、という不慣れのためかもしれません。が、それにしても、書けない。何を書いていいのか分からない。はっ、これがまさか噂のスランプか！とうとうわたくしにもスランプが！と、気付いた途端ワクワクして筆が進み始めました。あれ。どこ行ったのスランプ。戻っておいで。いや、書けるならそれに越した事はないんですけどね。

先週末から、大学時代の友人たちが3組ほど立て続けに京都から東京に押し寄せるといふ千客万来な日々でして。彼らはまだ学生なので夏休み中で、それに付き合っただけ週末遊んでいたら、そりゃもう森のくまさん

いてくることついてくること。もうお嬢さんという年齢じゃなくてもダッシュで逃げたくなるどころです。まあそんなわけで気付けば秋も真っ盛り。夏休みがなくても秋は訪れるんですよね。ふふふ。この夏行ったところといえば、実家・・・のみ。あ、あと社員旅行で島根に行きました。人生初寝台列車。電車に個室があることに驚きながらも、いつでもどこでもいくらでも寝られるのが取り得の舞さんは、窓にブラインドすら下ろさずに一晩爆睡したのでした。つまりは停車の度に、ホームから寝姿が丸見えだったということです。ああお恥ずかしい。

島根は駆け足で見どころを観光したのですが、やはり石見銀山は見ごたえがありましたね。洞窟や、それに類するものはあまり得意ではないのですが、きちんとガイドさんの説明を聞きながら歩くと、ありきたりですが、人間のできることというのは本当にすごいなあと素直に感じました。どうしてこの山をこんなに掘ろうと思ったのか、いやそりゃ銀が出るからですけど、それにしただけ、そもそも掘れると考えたことがすごいです。ひとの力だけで。蠟燭の明かりを頼りに。しかも、埃やら塵やらで肺を悪くしないように（それでも塵肺のせいで平均寿命は20代だった

そうですが)、空気を換気するシステムも手動ながらにきちんとあって。今の日本の生活が、如何に電気に頼っているかということに改めて気付きました。阪神大震災のときに、電気も水もガスもない生活を経験し、それがないとどれだけ生活が不便か、水がどれだけ重いか、実地に学んだはずだったのに、正に喉物すぎれば熱さ忘るる状態。うっかりお手洗いの電気をつけっぱなしで出かけてしまうことすらあります。電気代云々の問題ではなく(いやそれも大事ですけど)あって当たり前と思いつぎてるんですよ。毎年1月17日だけでなく、日々の生活でも時々、今の生活の便利さ、ありがたさはしっかり自覚したいなあと考えたのでした。

あと、出雲大社は残念ながら工事中で、しかも時間がないために裏口のようなところから入って、きちんと参拝していないのですが、さすが11月に全国の神様が集まるところだ、という雰囲気は感じました。去年まで京都に住んでいたのも、寺社仏閣に対する目はどうしても厳しくなりますが、出雲大社ぐらいですと、さすがの貫禄ですよ。他にも、小泉八雲記念館や足立美術館(庭園がとてとても綺麗)など、もっと時間があればゆっくり過ごすにはとても良い土地だと思いました。近年の「歴女」ブームのせいで、なんでもかんでも

歴史に関する説明を求められるのには閉口しましたが(それでも古事記程度なら好きだから答えてしまう)、自分にとっても良い勉強となりました。ああまさか西洋史学科を卒業してまでこんなに日本史について調べる日が来ようとは。分からないものですね、人生。日々勉強だと思って、これからも精進していこうと思います。

(高橋 舞)

つとがわ 編集後記

富山県氷見市の“老健施設”で世話になっていた父が、そこでの生活が“限界”になって“特養施設”に移ることになりました。移って、“介護度5”になって少しは良くなるように言われていますが、違うように思っています。93歳の父の現状は、老健のベッドでほぼ24時間横になっていて、自分で体を動かすということもほぼ全くなくて、手足指の先まで“固く”なっています。体を動かすこともなくて、血行も良くありませんから、指先などに触るとひんやりしています。だから、動かなくてよい、ではなくて少しでも手足指を動かすこと、そのことの手助けも必要です。いわゆる“リハビリ”です。しかし、リハビリの保健医療は、最長180日で制限されることになっています。特養に移ったとしても、必要なリハビリは期待できず、外部からそれを援助することもた易くはありません。唯一、そして必要なのは、そこに預けつきりではなく、身内、家族が可能な限りの働きかけをし、どんな小さなことであっても援助を怠らないことであるように思っていますが、何しろ富山県氷見市は、西宮からは近くありません。

(K)

先日から祖父が携帯電話を持つことになりました。とりあえずは通話のみらしいのですが、そのうちメールのやり取りをしてみたいなあ～なんて思っています。その時、わたしはどんな文章を打って、そしてどんな返事が返ってくるのでしょうか？携帯なんて持つことはないと思っていた祖父が、携帯に少しワクワクしているようです。89歳にして初体験！いくつになっても初めてのことにワクワクするんだなあ～と、にんまりしてしまいます。

(I)

島根に住む祖母から梨が届きました。5月にはちまき、6月にはデラウェア、9月には二十世紀梨、年末には野菜やお餅(子どもの頃にはそこにお年玉も)を送ってくれて、祖母からの荷物で季節を感じています。そんな祖母はもうすぐ81歳。ですが、毎日6時に自転車を15分こいでお墓参りへ、週に1度はスイミングスクールへととっても元気なのです。先日もスイミング仲間と旅行へ行っただとか。1年に1度、お盆にしか帰省しないので、敬老の日になにか「おばあちゃん孝行」できないかと考えています

(Y)

音楽が大好きで色んなジャンルの音楽を聴きます。生で聴く機会は滅多になくて、いつもウォークマンなのですが先日野外ライブに行ってきました！好きなアーティストがいるわけではなかったけど...楽しめるかな～なんて思っていたのですが！自分でもびっくりするくらい楽しんでいました！今まで知らなかった曲を聴くこともできて、新しい出会いもありました

1日中雨でずぶ濡れになりながら～でしたがとても楽しいひとときでした。

やっぱり生で聴く音楽はいいなあ

(N)

2度目の誤嚥性肺炎、続く絶食ですっかり生活する力をなくし、ごはんも口に運ばれるがままだった父がずいぶん復活してきた。車いすに掛けて、両足を交互に踏み出し床を歩くようにして少し動きまわるようになった。家でドリップしたコーヒーを、とろみをつけたお茶(病院食)に混ぜてスプーンで口に運んでいたら突然コップを取って自分で飲もうとした。それで1滴ずつコーヒーを入れて目の前に置くと何度も手に取る。「おいしい」、「コップ」、「自分で」、いろいろなことが一気に頭の中で結び付いたようだった。車いすで長い廊下を自主リハビリ、横を歩きながら「あるこうあるこうわたしはげんき、あるくのだいすき～」と歌い続ける。幼稚園で歩行を応援するMちゃんの横でもこの「あるこう～」の歌を。歌は、幼い子から90歳までを励ましてくれる。

富山の父は2年数か月お世話になった老健から特別養護老人ホームに移った。3度目の施設移動、何ともという思いと同時に、明るく「ケアプラン工夫してもっといろいろなことができるようにしましょうね。必ずなりますよ、ここに来れば大丈夫」、そう言われる介護士さんのことばに、移動ばかりで申し訳ないという気持ちが和らいだ。シルバーウィークなどというものがあるけれど一体誰のためのどんな週間なのかしら。

(J)